

神戸大学経済経営研究所 家森信善

金融戦略骨子案は、これまでの議論をよく反映しており、盛り込まれた施策はいずれも重要であると考えております。したがって、本報告書の原案に、私は基本的に賛成です。

その上で、3点申し上げます。

第1に、本分科会で十分には議論されてこなかった保険に関する点です。私は保険についても研究しておりますが、ここに挙げられている2つの論点はいずれも重要なテーマであり、今後、しっかりと検討を進めていただきたいと考えております。

第2に、地域金融力の強化についてです。地域金融力強化プランを着実に実施していただきたいと思っております。事例集のとりまとめや横展開を通じて、各地域が学び合えるようになるという方向性は大変重要です。その点は、ぜひ実効性ある形で進めていただきたいと思っております。

第3に、コーポレートガバナンス改革についてです。今回の記述は、やや大企業を念頭に置いた印象がありますが、日本経済全体を考えれば、中小企業のガバナンスの底上げも極めて重要です。そして、その出発点は、会計情報の整備や経営情報のデータ化にあると考えます。自社の状況を正確に把握できなければ、適切な経営判断もできませんし、金融機関による事業性評価、事業承継、成長資金の供給もうまく機能しません。スペースの制約もあるとは思いますが、「②企業の成長投資を促進するためのガバナンス改革」の部分に、中小企業のガバナンスの基盤整備という観点から、何らかの記述を加えることを御検討いただければと思います。

最後になりますが、「資産運用立国」を、単に金融市場の活性化にとどめるのではなく、企業の成長、企業価値の向上、そして国民の豊かさにつなげていくことを期待しております。